

市政に対する一般質問

一般質問は、提出された議案にかかわらず、市政全般に対して、議員が執行者の考え方をただすことができるものです。
6月定例会では、6月16日・17日の本会議で16人の議員から質問が行われ、終始熱の入った論議が繰り広げられました。以下は質問・答弁の概要です(掲載は質問順、4面まで続きます)。

フィルムコミッションを導入し魅力的なまちづくりを

あやせ市政クラブ 安藤多恵子

問 映画やテレビドラマ等の撮影に際して、ロケ地やスタッフの宿泊施設や弁当の手配先の紹介、施設や道路の使用認可手続きの代行等の支援を行い、実際のロケをスムーズに進めるための非営利公的機関をフィルムコミッションといい、県下では、厚木市など八自治体が運営している。本市でもこれを導入し、市民が誇りの持てる魅力的なまちづくりや地域の再発見につなげてはどうか。また、市民が自分の好きな場所を広報に発表することなどにより、綾瀬のいいところを探し、まちを見つめ、好きになることが大切と思うがどうか。

答 フィルムコミッションの多くは、市町村が設立母体としてかかわっており、誘致活動による情報発信効果や経済効果、ロケ地が放映されることによる知名度や新たな観光名所としての集客力の向上など大きなメリットがある。この導入は、広く情報発信する上で有効な手段と認識していることから、今後、その実現性や受け入れ体制等の議論を深め、課題を整理検討し判断したい。また、市民が自分たちの地域をもう一度見

職員の意識改革を 図る動機付けをどの ように進めるか

あやせ市政クラブ 石井麒八郎

問 日本の社会構造が大きく変わり、既に少子高齢化や国の行財政再建による分権化が進み、多くの分野で改革が求められている。本市も多様化した市民ニーズに対応できる市政と市民や企業の積極的参画による協働型社会の構築を目指しているところであるが、そのためにも職員の意識改革が求められている。職員の意識改革は二十一世紀の避けて通れない課題であり、これからは市政向上の原点である。市長の施政方針で掲げているが、職員の能力を發揮できる職場環境づくりと意識改革の動機付けをどのように進めていくのか。

答 これまでの年功序列的な横並び主義から脱却し、個人の能力や業績を重視し、職員のやる気を喚起する方向への転換が必要であることから業績を上げたものが報われる人事管理を構築するため、本年度から人事評価システムを始めた。本システムは、評価過程で必須であるコミュニケーションを通して、期待される職員の役割、やるべき仕事内容、とるべき行動を明らかにすることで、自ら考える自律した職員への動機付けとともに部課長等のマネジメント能力が試されることにより、管理職員の意識改革も行い、更なる組織の活性化を図っていききたい。

市外からも多くの 人が集まるイベント 等で町おこしを

あやせ市政クラブ 増田淳一郎

問 現在、市外の人が集まる最大のイベントはいきいき祭りであるが、町おこしとして新たなイベント等を考えないか。今年の市民まつりは一部を庁舎周辺で行う予定だが、将来的にスポーツセンターまたは光綾公園で開催する考えは。また、さらに多くの人が集まるよう、日中の祭りを涼しい時期に変更しないか。歩くことによる町おこしでは庁舎を出発し、城山公園、中央緑道、比留川沿い、タウンヒルズ前を通り庁舎へ戻るコースをウォーキングコースとしてPRしないか。あわせて比留川沿いの歩道整備と比留川の清掃を。

答 現在、イベントとして定着している城山桜まつり、緑化フェア、いきいき祭りを発展させ市のPRに努めていく。新たなイベントについては、市民等が主体的に取り組める基盤づくりを支援する。提案のあった二会場は、過去に実施した状況並びに検討の中で、交通渋滞、駐車場、管理上の問題等に困難と考えている。また、開催時期は、他のイベントや一堂に会せる時期を考慮し、従来のとおり開催していく。ウォーキングコースは今後PRしていきたい。歩道の整備は区画整理事業の中でまた、清掃は官民一体で進める。(他に「未利用農地の有効利用について」を質問)



市の鳥「かわせみ」

活性化インター設置に向け 今後の市の取り組みは

あやせ市政クラブ 青柳 慎

問 県は、厳しい財政状況の中で、今年度予算にインターチェンジ設置に向けた調査費を計上しており、本市も設置具現化事業を強いリーダーシップをもって進める必要がある。今年度は、インターチェンジ設置の検討調査結果を市民に公表し、合意形成を図ることだが、説明会の実施時期、方法及び方向性は。また、設置により広域的な面も含めてどのような効果と影響があるのか。さらに、市民の生活環境はどのように向上するのか。周辺市からの強い設置要望がある中、本市では設置促進に向けての意思表示が必要と考えるが。

答 説明会は、設置に向けた合意形成を図るため、八月から順次、開催する。実施は、パネル展示等を中心に行い、質疑応答や意見を把握した上で、アンケート調査等により意見を集約していく。また、設置により本市では、まちづくりの拠点整備や新たな企業誘致により地域活性化が図られるとともに生活の利便性が大きく向上する。また、県央・湘南都市圏も同様の活性化が図られると考えている。意思表示としては、県に対し要望活動を継続していくが、まずは市民合意が大事と考えている。(他に「綾瀬市の観光イベントについて」「スポーツで活力ある街づくりについて」を質問)

「心の健康」に気軽に声を かけあえる職場と地域に

日本共産党 上田 祐子

問 厚生労働省は職場における心の健康を重視している。精神、社会的福祉まで含んだ「健康」への課題意識を持ち、市役所でも上司の管理監督責任をもつと位置付けるべきでは。系統的な援助が可能な職場での相談体制等の施策の充実、地域保健の観点からも重要である。産業医専門の医師への委嘱など他市の状況調査、小規模事業所のための地域産業保健センターなど一層の充実を。

答 厚生労働省は職場における心の健康を重視している。精神、社会的福祉まで含んだ「健康」への課題意識を持ち、市役所でも上司の管理監督責任をもつと位置付けるべきでは。系統的な援助が可能な職場での相談体制等の施策の充実、地域保健の観点からも重要である。産業医専門の医師への委嘱など他市の状況調査、小規模事業所のための地域産業保健センターなど一層の充実を。

子どもを産み育てたいと 思える子育て支援施策を

新国会 綱嶋 洋一

問 わが国における少子化の進展は社会や経済を基盤から揺るがす事態をもたらすため、子どもを産み育てることに喜びを感じられる社会への転換が求められる。国はエンゼルプラン等を策定し少子化対策を、次世代育成支援対策推進法を制定し子育て支援に取り組んでいる。本市では本年三月に次世代育成支援計画を策定したが、この中において、子育て支援センターの拡充、待機児童の解消、ファミリーサポートセンターの設置についてをどう計画に反映し、今後どのように推進していく考えか。

答 次世代育成支援行動計画は、子育てに関する施策を総合的、一体的に進めるため、はつらつしあわせプランなどの上位計画と整合性を図り、子どもが健やかに生まれ育ち安心して子育てのできるまちづくりを基本理念に作成した。その中で主な

次号は、11月15日の新聞(朝刊)に折り込みます。